



代表取締役社長

梶川 勇次

◆ 経営環境

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に加え、雇用や所得環境の改善が見られた一方で、地政学的なリスクや円安の進行が原材料価格やエネルギーコストに影響を与えるなど、先行き不透明な状況が続いております。食品小売業界におきましては、物価高により消費者の節約志向が一層強くなる中、エネルギー価格や原材料の仕入価格に加えて人件費の高騰もあり、厳しい経営環境が続いております。

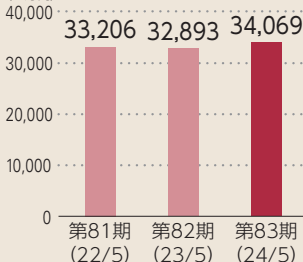
◆ 営業概況と業績

このような経営環境のもと、当社グループといたしましては、地域に密着したスーパーマーケットとして、地産地消を軸とした商品開発及び価値のある商品の提供に努めてまいりました。企画・販売促進については、創業111周年記念セールが好調に推移し、楽天ポイントによる販売促進の強化や割引券の効果も

■ 連結決算ハイライト

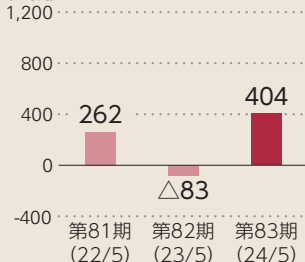
営業収益

(百万円)



営業利益

(百万円)

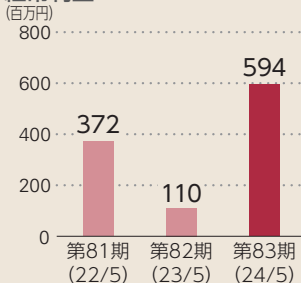


あり、既存店ベースで来店客数と客単価が向上いたしました。働き方改革と業務効率化については、新たにグループウェアを導入して店舗と本社とのコミュニケーションを密にして、本社の指示に対する店舗の実行力向上に努めてまいりました。また、改革チームを立ち上げて岡崎食品加工センターの作業効率と商品レベルの向上を図ってまいりました。さらに、作業効率と売場効率を高めるために、複数の店舗で売場のレイアウト変更を含めた小改装を実施いたしました。企業価値の向上については、エネルギーや環境保護への取り組みとして、太陽光発電導入店舗の拡大によりCO₂排出量削減に貢献するとともに光熱費を削減してまいりました。また、コンプライアンス遵守への取り組みとして、部門間の情報共有を目的とした新たな会議体を創設して、横の連携を密にして風通しの良い職場環境作りに努めてまいりました。次に、地域貢献活動では、食育の一環としてJAグループ愛知様との共同企画で親子を対象とした田植えや稲刈り体験、地域のスポーツ振興の一環として地元の少年野球チームを対象に、ドミー旗争奪少年野球大会を実施いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の営業収益は340億69百万円（前年同期比3.6%増）、営業利益は4億4百万円（前年同期は営業損失83百万円）、経常利益は5億94百万円（前年同期比439.9%増）となりました。なお、親会社株主に帰属する当期純利益は3億29百万円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失2億83百万円）となりました。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益

